

# Abstract

AROMA RESEARCH No.71(Vol.18 No.3)

スパイス類由来揮発性成分の機能性について—認知症予防効果—

村田 和也、松田 秀秋

---

<要旨>  $\beta$ -セクレターゼ阻害は認知症、特にアルツハイマー型認知症の予防および治療ターゲットとして認識され、多くのスクリーニングが実施された。しかしながら、治療薬につながるような化合物は未だ得られていない。そこで、我々は継続摂取が可能な食品、特に特異な香りと味を有するスパイス類に着目し、 $\beta$ -セクレターゼ阻害作用を指標にスクリーニングを実施した。スパイス類から得られた低極性成分についてスクリーニングしたところ、特にウコン（ターメリック）のエキスに高い作用を見だし、有効成分の  $IC_{50}$  値は 39~92  $\mu$ M の範囲であった。これらの結果から、スパイス類を長期摂取することにより、アルツハイマー型認知症の予防が期待できることが明らかとなった。

<キーワード>  $\beta$ -セクレターゼ、アルツハイマー型認知症、*Curcuma longa*、ツルメロン、低極性エキス